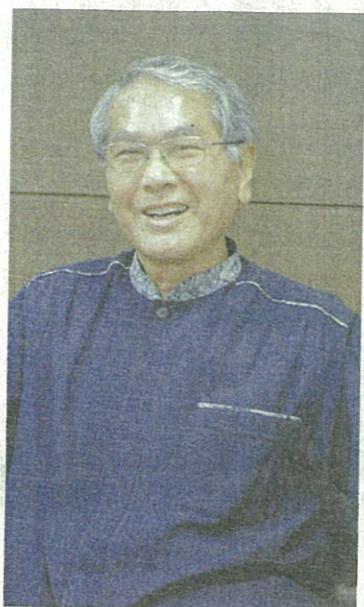


# 復帰後の建築と歩む



黄綬

新城安雄さん(68)

国建会長

建築・土木設計のコンサルタント業  
を手掛けて50年。建築構造の設計が専

## 建築設計監理業務精励

門で、建物の骨組みや設備空調など建  
築物の基礎となる部分を支える“裏方”  
に長年従事してきた。

1964年に国建に入社。安心安全  
をモットーに、首里城復元や美ら海水  
族館、万国津梁館など、沖縄の象徴と  
もいえる建築にも携わり、復帰後の沖  
縄の振興・発展と「ともに歩めたこと  
はとてもラッキー」と目を細める。

耐震強度偽装事件が発生した当時  
は、県建築士事務所協会会長を務め、  
建築設計に関する県民の信頼回復にも  
尽力。

現在は、建設関連の裁判にかかるア  
ドバイスなど裁判所の専門員も務め  
「側面的に社会貢献していきたい」と  
意気込む。

(八重瀬町後原401の2)

新城会長

黄綬褒章受章おめでとうございます。

↑

沖縄タイムス

2012年(平成24年)11月2日(朝刊)

# 街の基盤整備に力

黄綬

新城 安雄さん(68)

建築設計監理業



建築に関わり50年。ま  
だ県内産業が十分に発展  
していなかつた復帰前か  
らインフラ整備に尽力し  
てきた。専門は設計を支  
える建築構造。「街づく  
りに関しては、社会的に  
貢献してきたと思う」と  
自負する。  
県建築設計事務所協会  
の会長も務めた。200  
5年に現役建築士による  
耐震強度偽装問題が県外  
で発覚したが、専門性を  
ダイバイスなど裁判所の専門員も務め  
「側面的に社会貢献していきたい」と  
意気込む。

生きとして業界の信頼回復  
に努めた。  
現在は会社業務の傍  
ら、那覇地方裁判所の調  
停委員と専門委員を務め  
る。「今後は社会貢献と  
企業の存続に努めたいたい。  
できることは少ないが、  
これが私の仕事かな」と  
笑顔で話した。

68歳 国建会長 八重瀬  
町後原401の2

琉球新報

2012年(平成24年)11月2日(朝刊)